

ウォーキング

初詣 伊勢神宮外宮・内宮参拝

令和6年1月13日(土)

1. ルート 近鉄伊勢市駅～外宮～内宮～五十鈴公園～近鉄五十鈴川駅
11.0km (15,000歩)
2. 参加者 市川義行・伊藤利男・伊橋健治・喜吉 雄・中村 衛
中村軍志・福本 泉・濱田 一
8名
3. ドキュメント

2024年辰年の初詣ウォーキングは伊勢神宮参拝で決まり。午前10時、伊勢市駅前に集合する。駅に降り立つと伊勢市の隣町、玉城町の観光協会の獅子舞が披露されていた。やはり正月は獅子舞がよく似合う。参加のメンバーは駅前で円陣を組み「あけましておめでとう今年もよろしく」と声を掛け合う。そして駅から5分ぐらいのところに鎮座する外宮と言われている豊受大神宮に参拝する。豊受大神宮は『内宮の天照大御宮のお食事を司る神であり衣食住、産業の守り神』として崇敬されている。何時になく多くの参拝客で賑わっている。



駅前の獅子舞風景



神宮前広場



外宮の参道



外宮の参拝殿(神殿の撮影は禁止されている)

外宮に参拝した後は内宮に向かう。外宮と内宮を結ぶ道は一番古い古市の通りと御幸通りそして新しい御木本道路の三通りある中で最短距離の御木本道路を南進する。浦田町の交差点からおはらい町の混雑を避けて御幸通りを宇治橋に向かって歩く。この日は寒の最中とは言えさほどの冷え込みもなく、ウォーキングに絶好の日和である。内宮の入口の宇治橋に到達したのは11時40分、五十鈴川の水はいつもながら澄み切っている。橋の袂には四季桜が満開であった。

今回は通常見ることのできない宇治橋の写真を2枚紹介する。



五十鈴川の清流



四季桜



河原から見る宇治橋 (観光三重の写真) 冬至の頃に宇治橋に登る日の出

宇治橋を渡ると玉砂利を敷き詰めた参道を歩く、常緑樹の大木の繁る中を歩いていくと段々と清々しさを深く感じるようになっていくのはどうしてなのだろう。

内宮(皇大神宮)は『およそ2000年前から五十鈴川のほとりに鎮座し、皇室の祖先であり我々国民から総氏神のように崇められる天照大御神を祀っている』参道を15分ほど歩くと神殿に到達する。ここでも写真は階段下までで神殿の撮影は禁止されている。



玉砂利を敷き詰めた参道



内宮の参拝殿

各々の思いでお参りを成し遂げるとさらにすっきりした気持ちとなる。誰か曰く「いっぱいお願いすることがあって時間がかかった」とみんなを笑わせた。参道沿いに献上された三重の酒の樽が並べられていた。それにしても多くの酒造場があるものだと感心させられる。その前で記念写真を撮る。宇治橋を渡り返しておはらい町に足を運ぶと歩くところがないほどの混雑で賑わっていた。赤福とお神酒を買い求めて陸上競技場のある五十鈴公園で車田に座りお神酒でカンパイをする。御酒も美味しかったが赤福も美味しかった。一時間ほどの時を過ごして近鉄五十鈴川駅に向かい14時過ぎの電車に乗り帰宅の途に就く。



参加者の皆さん



宇治橋の神宿る擬宝珠(ギボシ)



おはらい町の賑わい